

## ディスコグラフィー収録

### ディスコグラフィー【2017No.51】(HP 収録)

分類：CD

作曲家：ハイドン他

曲名：チェロ協奏曲第1番ハ長調他

演奏：クレメンス・ハーゲン他

発売：King International/SIMAX

No.：PSC1361

概要：



クレメンス・ハーゲンと河村尚子のデュオリサイタルに行って買い求めてきたもので、収録曲は次のとおりです。

ハイドン：チェロ協奏曲第1番ハ長調 Hob.VIIb-1 (カデンツァ第1&2楽章：ヘニング・クラッゲルード)

モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364

演奏者と録音は次のとおりです。

クレメンス・ハーゲン (チェロ：1698年製アントニオ・ストラディヴァリウス)

ヤン・ビョーランゲル (ヴァイオリン、音楽監督)

ラース・アネルス・トムテル (ヴィオラ)

1B1 室内管弦楽団

クレメンス・ハーゲン (チェロ：1698年製アントニオ・ストラディヴァリウス)

録音：2016年2月15-17日 (ハイドン)、2016年3月18-19日 (モーツァルト)

スタヴァンゲル・コンサートホール

ネット上の解説を以下に引用します。

「★ハーゲン・クアルテットの創設以来のメンバーであり、現代を代表するチェリストの一人クレメンス・ハーゲンが遂にハイドンのチェロ協奏曲第1番を録音しました。ハイドンが楽長を務めていたエステルハージ家の宮廷楽団のチェロ奏者のために書かれたと言われ、1961年にプラハの国立博物館の蔵書の中から発見され知られるようになった作品。現在では明るく開放的な音楽に、チェロの華やかな技巧も味わうことができ、チェリストの重要なレパートリーの一つとして定着しています。クレメンス・ハーゲンはこの録音で現代のノルウェー人ヴァイオリニスト、ヘニング・クラッゲルードによるカデンツァを使用しています。バロック時代の痕跡も感じられるハイドンの音楽と現代音楽との大きなギャップが印象的。分散和音の鮮やかな弓さばき、目の覚めるような華やかな技巧、そしてクアルテットのメンバーとして培ったハイドンへの深い共感を感じ取ることのできる演奏です。

★カップリングには、モーツァルトのヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲を収録。1B1室内管弦楽団の音楽監督を務めるヴァイオリニストのヤン・ビョーランゲルとノルウェーを代表するヴィオラ奏者のラース・アネルス・トムテルによる演奏。名手2人がオーケストラと渡り合う協奏曲。オケは控えめながら全体を支える安定感があり、ソロのヴァイオリンとヴィオラの対話がより際立ちます。

★スタヴァンゲルの弦楽アンサンブル「1B1」は、ビェルグステ1番地 (Bjergsted 1) を本拠とするモダン楽器アンサンブル。スタヴァンゲルが2008年の「ヨーロッパ文化の首都」に選ばれた際、スタヴァンゲル大学で教える音楽家と最優秀の学生たちにスタンヴァンゲル交響楽団のメンバーを加え創設されました。」

ハーゲンのハイドンのチェロ協奏曲第1番は、録音が新しく、切れと分離の良い演奏で、ハーゲンが使っている1698年製アントニオ・ストラディヴァリウスのチェロの音色も演奏会で聴いてきた豊かな響きを再現できています。カデンツァが特徴的です。ヤン・ビョーランゲルとラース・アネルス・トムテルによるモーツァルトの協奏交響曲も軽快な掛け合いに木管がからむという聴きどころがある演奏です。

今回は、FIDATA HFAS1-S10の活用(19)で報告したHFAS1-S10のファームウェアのアップデートにより、次のようなルートで再生してみました。

BRD-UT16WX→US3-HB4AC→HFAS1-S10→US3-HB4AC→SWD-DA20

\*HFAS1-S10の前後のUS3-HB4ACは同一機

このため、最新録音の良さが十分味わえるようになっています。

以上